



料理に挑戦する「元気！ながさきの会」の会員

認知症予防の街づくり

豊島の市民団体

先駆的活動5周年

楽しみながら地域貢献

認知症予防を目的とした活動を行っている市民団体「元気！ながさきの会」（豊島区長崎）が今年、発足5周年を迎える。同会の「認知症にならない街づくり」は、都内でも先駆的な取り組みと注目される。同団体の活動を側面支援する都老人総合研究所では来月、同会役員らを引き、大田区内で活動報告などを披露してもらう公開講座を開く。

来月、大田で公開講座

による認知症予防プログラムの研究を実施。翌01年、研究参加者が集まり、自主的に認知症予防に取り組みたいことを目的に同会を発足させた。

入会資格は60歳以上。現在の会員は、発足時のほぼ倍の約170人。平均年齢は74・5歳だ。近くの小学校への園芸指導や、シニア

都内では、世田谷区などでも、地域活動による認知症予防の取り組みが広がっている。同研究所認知症予防対策室の宇良千秋研究員（36）は、「参加者自らが認知症予防の担い手となる豊島のケースは、都内でも先駆的な事例。興味のある」と仲間と主体的に取り組める仕組みづくりが重要だ」と評価する。

公開講座は2月8日午後2時から、大田区民ホール（蒲田5）で開催。認知症予防の研究成果や、同会の取り組みなどが報告される。入場無料。問い合わせは都老人総合研究所（☎03・3964・3241）へ。

向けパソコン講座、太極拳など、12グループが活動している。

同会副代表の伊藤登さん（70）は、「楽しみながら地域貢献にも取り組むのが会の特徴」と話す。

今月12日には、男性会員7人が「男の料理」に挑戦した。指導役の女性会員から、オードブルやサンドイッチのレシピを渡され、材料の買い出しから始めた。参加者らは、初挑戦のメニューに四苦八苦しなげながら、約1時間で料理を完成させた。

い逮捕した。調べによると、岸容疑者は昨年10月、大手スポーツクラブの空手教室に指導を派遣している都内の空手道の男性経営者63歳の内のレストランに呼び出し、右翼団体の構成員であることをつき、指導員手数料をピンハネして私を肥やしている。街宣を出てからでは手遅れなので、私が何とかする。など因縁をつけて、計3回、たつて計300万円を奪取った疑い。

江戸川

2店舗に連続強盗

似た容姿、同一犯の可能性

16日午後5時55分ごろ、江戸川区西瑞江2のりサイクルショップ「グレ」で、客を装って店内に入ってきた男が、同店の女性経営者（57）にナイフのような刃物を見せ、カウンターに置いてあった女性用の手提げバッグを奪って逃走した。バッグは陳列予定の商品で、何も入っていなかった。また、午後7時50分ごろ、

同店から南西に約1・5キロ離れた同区江戸川3のコンビニエンスストア「ヤマザキYショップ」で、客を装った男が女性店員（54）にナイフのような刃物を突きつけて「金を出せ」と脅し、レジから現金約20万円を奪って逃げた。

小松川署によると、いずれも男は18〜20歳ぐらいで、身長約170〜75、黒色のズボンをはいていた。

同署は同一犯による強盗事件とみて捜査している。

右翼装い30万恐喝容疑の男を逮捕

右翼団体の構成員と偽って知人の空手道場経営者から現金を脅し取っていたとして、警視庁組織犯罪対策3課は16日、千葉市緑区おゆみ野、空手道場経営・岸繁広容疑者（50）を恐喝の疑

高年齢者対策に重くIT使い防災訓練

きょう荒川流域国土交通省荒川下流河事務所は17日、情報技術（IT）を使った広域的な防災訓練を実施する。災害弱になりやすい高齢者の誘導や救出に重点を置いて取り組みを展開する。

訓練は荒川沿いの東京埼玉の2市7区の自治体自治会など約80機関、計600人が参加。千代田を震源とするマグニチュード7・2の直下地震が起きた想定で、高齢者が一

積回路（IC）タグ」を

都福祉保健局の推計では、2004年12月末時点で、65歳以上の10・8%が何らかの認知症の症状があるとされている。高齢化に伴いその割合も上がり、85〜89歳では50・6%の割合だった。

認知症予防には、前日の昼に食べたものを覚える「エピソード記憶」や、風呂をわかしながら料理をするといった、複数の作業に注意を配る「注意分割機能」、予定を組む「計画力」などの認知機能を鍛えることが効果的とされる。

こうしたことから、同研究所と豊島区では、2000年、同区長崎地区の高齢者らを対象に、小グループ

を派遣している都内の空手道の男性経営者63歳の内のレストランに呼び出し、右翼団体の構成員であることをつき、指導員手数料をピンハネして私を肥やしている。街宣を出てからでは手遅れなので、私が何とかする。など因縁をつけて、計3回、たつて計300万円を奪取った疑い。

岸容疑者は容疑を認め